



聖書を読む会 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル内
Tel/fax: 03-5577-4687 E-mail: sykoffice21@gmail.com
Web: <http://syknet.jimdo.com> 郵便振替: 00180-9-81537

No. 119

2019年6月1日発行



水沢駅前のベタニア ～地域に生きる信仰

飯能キリスト聖園教会 牧師
若井 和生

以前、岩手県の水沢聖書バプテスト教会でご奉仕をしていた時のことです。水沢駅前で妻と二人でクリスマス集会のチラシ配布をしたことがありました。クリスマスが間近なのに、駅前の人影もまばらで、チラシを配る時間よりも、雪に埋もれた街並みを眺めている時間の方が長いような、そんな状況でした。

それでも私には水沢駅前で伝道できることに喜びがありました。かつて駅前に「池田屋」という旅館があり、そこが水沢のキリスト教伝道の中心だったことを、私はある本を通して知ったからです。この「池田屋」の女主人だったのが池田政代という人物です。

池田政代はかつて「山見楼」という名の遊郭の女主人でした。その池田政代の人生に、悲劇が次々と押し寄せます。まずは夫の浮気。さらに翌年に政代は失明してしまいます。夫を奪われた嘆きと悲しみのあまりに泣き続けたのが原因だったと言われています。

そんな人生のどん底で、彼女はキリストと出会いました。彼女に福音を伝えたのが、前回の「通信」で紹介した花巻の斎藤宗次郎です。やがて彼女は回心に導かれますが、その回心は半端なものではありませんでした。遊郭「山見楼」を廃業し、代わりに駅前に禁酒旅館「池田屋」を開業したのです。そしてこの「池田屋」を様々な集会の場所として提供し、水沢のキリスト教伝道の拠点としました。政代の回心がどれだけ徹底したものだったのかが伝わってきます。当然、当時の水沢の人々を驚かせる大事件でしたし、地元の岩手日報によって報じられ、岩手県中の人々に知られることになりました。

1912年（大正元年）10月9日、北海道へ伝道旅行に向かう途中の内村鑑三

が水沢に立ち寄り、この池田屋に宿泊しました。その時のことを内村は日記に次のように記しています。

「大正元年十月九日、夜十時を過ぐる二十分、一同水沢駅に下車し、駅前池田屋旅館に投宿す。旅館は昨年貸座敷を廃業して開業せし者、某女主人と彼女の妹とは、今やキリストにおける我等の愛する姉妹なり。我等一夜をこの家に過ごしてベタニアに休息するの感ありたり」



前列左端：斎藤宗次郎、中央：内村鑑三
内村の右隣：池田政代
写真提供：国際基督教大学図書館

「ベタニア」とはもちろん、イエス・キリストの愛したマルタとマリアの住んでいた村であり、キリストはこのベタニアにて何度か心休まる時を過ごされました。内村鑑三にとって「ベタニア」と感じられる場所が、かつての水沢の駅前にはあったというのです。

内村鑑三の著作を通して回心に導かれたのは花巻の斎藤宗次郎でした。その斎藤宗次郎の信仰者としての生き様が花巻の人々に証し

され、宮沢賢治にも影響を与えていたことは前回、紹介させていただいた通りです。その福音の拡がりや花巻から水沢にまで波及していた姿に、神の国の拡がりや前進を感じさせられます。

この事実を知らされて以来、水沢で伝道できることが私の喜びとなりました。この水沢に「ベタニア」があり、神の国の拡がりやずっと前に、この町に及んでいたことがわかったからです。

その私も三年前に埼玉に移り、昨年より神学校（聖書神学舎）で日本キリスト教史の授業を担当するようになりました。学びをしながら日本のキリスト教の歴史は、重要人物と出来事を中心にまとめられていて、なかなか全体像が見えてこないもどかしさを感じています。この国における神の国の展開が、私たちの知らない各地に埋もれているのではないのでしょうか。そのみわざが今も、力強く生き続け、前進し続けているのではないのでしょうか。

私たちの知らない「ベタニア」がきっと、いろんな所にあるに違いありません。それらを少しでも発掘できればと願っています。

「神の国はこのようなものです。人が地に種を蒔くと、夜昼、寝たり起きたりしているうちに種は芽を出して育ちますが、どのようにしてそうなるのか、その人は知りません。」

マルコの福音書 4 章 26～27 節

「遠くで、近くで、SYKの手引を用いて」

聖書を読む会 理事長

東京フリー・メソジスト桜ヶ丘教会 牧師

水口 功

今年の2月末に、礼拝などの奉仕のために、タイ・バンコクの日本語キリスト教会（中岡和彦牧師・直美牧師）を訪問しました。そのおりに、「グループ聖研セミナー」を開き、小グループで聖書を読む楽しさ、魅力について語らせていただきました。そのセミナーの中では、「救いの基礎」のお試し版を用いて、第1課「造り主である神」を、創世記1章からともに学びました。その後、グループ聖研の感想を伺うと、参加者の中の一人の方が「手引そのものが教師のようだと思います」という感想を述べられました。司会者がSYKで紹介している「手引の使い方」を、ある程度把握して手引を用いると、グループでの話し合いが自由にでき、しかも聖書そのものから大切な学びができることを、一同で確認できました。こうして、SYKの手引を海外の日本語教会で紹介することができて幸いでした。

ところで、このセミナーの参加者の中に、最近、バンコク日本語教会で受洗した方がおられました。その方は、タイに来られる前、東京でも求道者として、いくつかの教会に通っていたそうです。しかも、それらの教会で行われていたSYKの手引を用いたグループ聖研を通して、キリスト教信仰についての求道が続けてこられた、とのことでした。その後、バンコクでついに信仰告白に導かれて受洗できたことを、とても喜んでおられました。そのお証しを伺い、手引を用いた地道な伝道が、この方の信仰の決断のための備えとして、尊く用いられたことがわかり、とても嬉しくなりました。

私は、今、牧会をしている教会で、教会学校に来ているお子さんのお母さん、また、30代後半の男性、それぞれと「救いの基礎」を用いて聖書の学びをし、信仰のお導きをしています。

「創造」、「墮落」、「回復」、「完成に向かって」と学びを進めていく中で、この二人の方がキリストに近づけられている手応えを感じています。そして、彼らが信仰告白、受洗へと導かれることを祈りつつ、待ち望んでおります。



◆◆◆ 出版情報 ◆◆◆

◎ 新刊

「ヨブ記・伝道者の書 -苦しみの日に-」4月出版 好評発売中!

◎ Amazon Kindle 版 電子版手引 **一律 324 円**に値下げしました!

スマホで、タブレット、パソコンで。
キリスト教書店での購入が難しい方。
ぜひ、ご活用ください。

「救いの基礎」
購入画面にアクセス!



◎ 新刊 制作中

「神のご計画（仮称）」昨年好評だったセミナーの教材を出版予定。

〜〜 オリジナル手引で学んでみました 〜〜

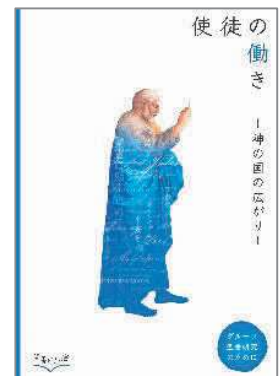


「ローマ人への手紙」 (20代男性)

何度読んでも味わい深い「ローマ人への手紙」をもう一度学びたいと思い、聖書を読む会の手引を使って少しずつ一人で読み進めています。手引を使うと、いつもは読み流してしまうところも、1節1節パウロの論理を丁寧に追えるので、聖書本文の豊かさをより味わうことができます。ローマ人への手紙全体を通して、福音のスケールの大きさをこれから知っていくのが楽しみです。

「使徒の働き」 (I教会 教会学校スタッフ)

教会学校で、子どものころから聖書のお話を聞いてきた若い人たちが、求道者のクラスで「使徒の働き」を学んでいます。よく知っていると思っていた箇所に、実はもっと深い意味があることが分かり、聖霊の働きが見えてきた様子です。手引には、詳しい説明があって分かりやすく、学んだことを「まとめ」で確認できるのが良いです。



事務所から

新しい手引が出来上がって出版のために印刷に入ると、それはもう、書店に並ぶ日が待ち遠しくてたまりません。隣の書店の前をうろつき、並んだ手引を見つけると、まるで「我が子」に注ぐまなざしで、平積みされた手引を眺めます。手引「ヨブ記・伝道者の書」もそのように送り出されました! ns

◆◆ 「聖書を読む会」の働きは、皆さまのお祈りと献金によって支えられています ◆◆